

朧の断片

-建築的マスキング効果による空間設計手法-

建築学専攻
空間デザイン研究

MJ23068 佐藤 菜々
指導教員 谷口 大造

序章 本論について -観測者の視点を分析するために-

0-1 研究背景

本論文は写真家の Saul Leiter の作品と和歌の空間表現に『隠す』という手法の共通点を見つけたことに始まる。Saul Leiter の写真作品には自身も同じ風景を見ているように錯覚する魅力がある。和歌も一瞬の動きを同じ体験をしているように伝える点で、写真作品のように捉えられる。それは視点の動きを伴う空間表現によって起こり、この表現方法を空間化することで、場所性を獲得する新たな空間を創出できないだろうか。

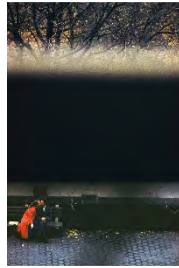


Fig1.untitled
/Saul Leiter

0-2 研究目的

海外ではテラス席を好む傾向から見える空間に没入する体験を好むが、日本は庭園と建築の関係などから第三者として別空間から観察する行為を通すことでその場所を体験することを好む事がわかる。つまり私たちはそもそも観察者の文化を持っている。建築は人間よりも長い時間を蓄積することができる。本論では、場所を観測する土地の観測者となり得る建築の姿を明らかにし、その設計手法を確立することを目的とし、研究を行う。

0-3 本論の構成

本論文は7つの章で構成する。

第1章では建築におけるマスキング効果について既存のマスキング効果を踏まえて定義する。

第2章では日本文化が持つ手法について、言語や物事の考え方、美学などの根本の性質から隠すという手法の有効性と空間の読み方を考察する。

第3章では伝統建築の事例よりランドスケープから配置におけるマスキングと、素材における透けるマスキング効果を抽出する。

第4章、第5章では建築分析から既存のマスキング効果をアート作品からアート表現で使われるマスキング効果を抽出し、マスキング表現の幅を広げる。

第6章では、第4,5章で分析・分類した結果をもとにマスキング効果について複合的に考察を行う。

第7章では研究結果をもとに空間マスキングモデルの提案を作成し、実際の敷地に建築設計を行う。

第1章 建築におけるマスキング効果について

1-1 マスキング効果とは

既存のマスキング効果は、嫌なものを隠す・隠蔽する効果と良いものだけを取り出して強調する効果の2種類がある。共通点としては、基本的に五感に関わる効果

であり、ネガティブや強い刺激を隠す事で、魅力を強調する効果である。

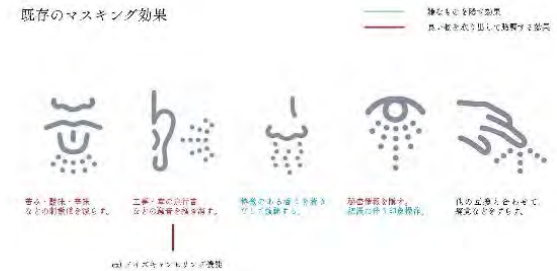


Fig2.五感にまつわるマスキング効果

1-2 表現におけるマスキング効果について

世界中にはインスタレーションや絵画作品を始めとして和歌にまで、"隠す"という空間表現手法をもった作品が存在する。



Fig3. 狩野派琳派南蛮図屏風

1-3 建築的マスキング効果の定義

本論において建築的マスキング効果とは、『空間の一部を隠すことで認識する空間と解釈を拡張し、体験する空間を豊かにする効果のこと』と定義する。

第2章 | 日本文化の手法

2-1 日本人の持つ編集文化

日本人は複数のものを同時に進行させ、並列的に思考する能力を持っている。松岡正剛の著書「日本という手法」の中でこれを編集文化と呼び、3つ事例からあるコードを与えるように空間を設計することで、日本人は文章を読むかのように空間を読み進められると考える。

2-2 詞と辞の関係

ただの音ともとれる辞は詞の性質を決定づけている。この関係性を利用して辞空間を設計する時、体験する詞空間の印象を大きく変えることができる。

2-3 和歌における風景の表現について

和歌における空間表現は近景・中景・遠景と大きく分けて3つの特徴を説明する事で充足すると分析できる。

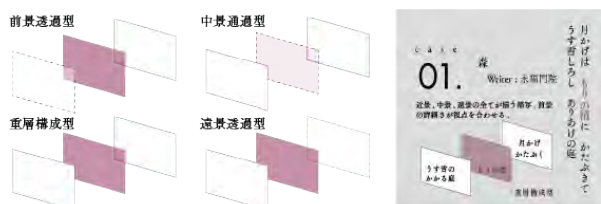


Fig4. 和歌の空間表現分析

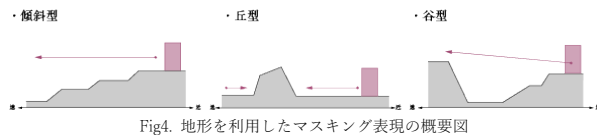
第3章 | 日本の伝統建築のマスクング効果

3-1 日本人の空間把握の特徴と想像力

線的な要素で空間を構成していた日本人は”空(ウツ)”の空間に何かを想起して空間を把握することができる。したがって私たちは、マスクングの手法を用いることで、空間につながりを見出し、空間ヒエラルキーを想起することでシークエンスを形成し、空間体験を豊かにする。

3-2 日本の伝統建築の中のマスクング手法

本章では、日本人が眺めてきた空間と場所性を観測する方法、状況を i) 地形を利用したマスクングと ii) 透かしマスクングのそれぞれの視点から分析する。



第4章 | 事例研究 -マスクング効果を持つ建築の分析-

4-1 現代建築からの手法の抽出

i) 谷口吉生の分析

ii) ルイス・バラガンの分析

4-2 アイコンについて

4-3 データリストについて

4-4 データシートについて

4-5 小結

既存のマスクング効果と空間構成を抽出、分析した。



第5章 | 事例研究 -観測の仕方の抽出-

5-1 場所を観察する視点

5-2 アイコンについて

5-3 データシートについて

5-4 データリストについて

5-5 データシートについて

5-6 小結

新たにマスクング効果を抽出し、作品ごとのマスクング率で比較することで、マスクング効果とマスクング率の関係を分析した。建築とアートの分析から、マスクングの空間構成要素3分類と10種類のマスクング効果を抽出した。

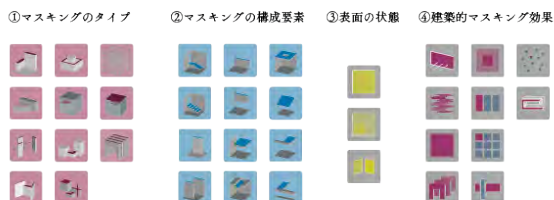


Fig7. 4.5章の分析で抽出したマスクングに関連する要素

第6章 | マスクングの相乗効果

6-1 マスクング効果の分析と考察

i) マスクング効果と表面の現象の関係

ii) マスクングの表面とマスクング効果の関係性

6-2 建築とアートのマスクング相乗効果

4.5章より、マスクング効果の表現幅は効果の総数の単純計算で2倍になる。不透明な構成要素で構成された建築的マスクング効果に加えて、透過性と投影(虚像)を扱うことで、進行方向側にのみ展開していたマスクング効果は、視点場である観測者を取り囲む360度の空間に拡張して展開され、空間体験が既存建築より何倍も豊かになる。

第7章 | 「朧の断片」

7-1 七十二候について

本章ではマスクング効果を利用し、建築自体が観測者となるように建築設計を行う。本プロジェクトにおいて七十二候という季節観を観測対象に設定する。

7-2 都市の季節観を観測するマスクングモデル

前章までに抽出、分析を行ったマスクング効果よりマスクングモデルを作成した。(Fig8)

7-3 設計プロジェクト

前項のモデルをもとに以下の4つのプロジェクトを計画する。それぞれの敷地において曖昧になってしまった季節観を観測し、マスクングの汎用性を検証する。

Project 1 - 月光の軌道 / 北の丸公園

Project 2 - 元旦の日出 / 原宿駅 3 出口

Project 3 - まちの様相 / 表参道駅 A2 出口

Project 4 - まちの装い / 新宿三丁目駅 A1,A2 出口

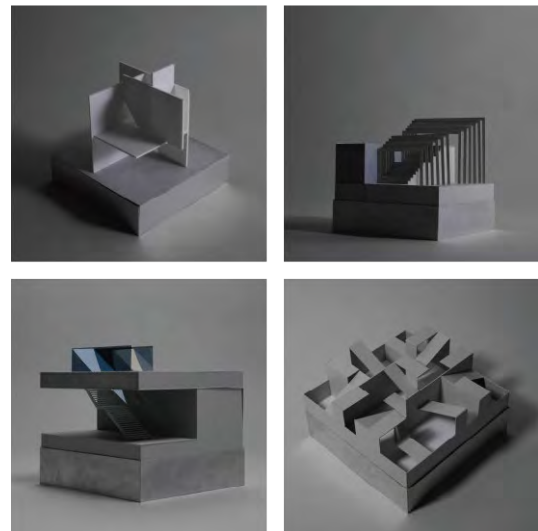


Fig8. マスクングスタディモデル

終章 | 総括

建築的マスクング効果による空間設計の手法は、空間の主体を読み込むようにシークエンスを形成し、街や人、現象を観測する空間を創出することができる。

主要な参考文献

[1] ソール・ライター、『ソール・ライターのすべて』, 青幻舎, 2017

[2] 中村雄二郎、『場所(トポス)』, 弘文堂, 1989

[3] 松岡正剛、『日本という方法』, 日本放送出版協会, 2006

[4] 佐々木健一、『日本的感覚 触覚とずらしの構造』, 中央公論新社, 2010

[5] 西沢文隆、『建築と庭 西沢文隆実測図集』, 中央公論美術出版, 2006

[6] 斎藤裕、『Luis Barragan ルイス・バラガンの建築』, TOTO 出版, 1992